

【全体概要】

- ・ 開会式では、主催者である西ジャワ州のカミル知事と、事務局である奈良県の荒井知事が挨拶を行いました。荒井知事は、「アジア・アフリカ会議が開催されたこの歴史あるバンドンの地で行われる本会合が、国を越えた相互交流のプラットフォーム、参加者の皆様の関係深化の場となり、平和で安定した東アジアの発展に貢献していく契機となることを願っている。」と挨拶しました。



(開会式の様子)



(荒井知事挨拶)

- ・ 討議では、新型コロナウイルス感染症からの産業や観光の回復について、首長による討議が中心の「メインセッション」、実務者による討議が中心の「サブセッション」を行い、ともに活発な議論を交わしました。(討議内容の詳細は、資料3 のとおり。)



(メインセッション)



(サブセッション)

- ・ 総会では、元駐中国日本国特命全権大使の谷野作太郎氏による特別講演が行われたあと、次回の第12回会合を、中国山東省・臨沂市の主催により2023年10月に開催することを発表し、荒井知事と臨沂市の侯曉濱（ホウ・シャオビン）市長が開催に向けて共に連携・協力して取り組むことを合意し、覚書を締結しました。(資料4 のとおり。)



(総会の様子)



(覚書締結)

- ・ また、会合に参加した地方政府の代表者等との会談を、西ジャワ州（インドネシア）、フートー省（ベトナム）、トゥアティエン・フエ省（ベトナム）及び忠清南道（韓国）と実施し、今後の交流に向けた活発な意見交換をしました。



（西ジャワ州との会談）



（トゥアティエン・フエ省との会談）

- ・ 会合開催期間中、会場内の地方政府紹介コーナーに奈良県のPRブースを設け、奈良の伝統工芸品や奈良の木を使った加工品の展示、グッズやパンフレットの配布等により、参加者に奈良県のPRを行いました。



（奈良県PRブース）



（奈良県PRブース）

- ・ 県内の経済関係者等も訪問団にご参加いただき、現地の企業、商工会、行政等の経済関係者との意見交換、現地の環境関係等の先進企業や奈良県から進出している企業の工場等を視察しました。



（意見交換の様子）



（現地企業の視察）

※写真が必要であれば、お申し出ください。